

ご挨拶



第 28 回日本整形外科超音波学会
会 長 渡 邊 千 聡 (医療法人河端病院 整形外科 副院長)

このたび、平成 28 年 7 月 2 日（土）に第 28 回日本整形外科超音波学会をメルパルク京都（京都市）にて開催させていただくこととなりました。

本会は平成元年に年 1 回の研究会として創設され、第 26 回からは研究会から学会となりました。創設当初は超音波画像の解像度は低かったためその活用は限られていましたが、現在超音波機器はもっとも進化、発展を遂げている医療機器の一つであり、運動器を明瞭に映し出すことができます。しかも軽量化、小型化も進み、院内での移動はもちろんのこと、病院外にも容易に持ち出すことができるようになり、その使い勝手の良さから運動器のあらゆる分野に必要な診断機器となっています。

今回の学会のテーマは「運動器超音波を活かす」といたしました。現在運動器超音波は、一般診療への活用はもちろんのこと、麻酔やリハビリテーション、スポーツフィールドなどさまざまな領域への活用が報告されています。本学会では、走査技術や診断技術の向上、さらには新しい分野への運動器超音波の活用など、様々な場面で活かされる超音波を議論したいと考えています。また、2つの教育研修講演を予定しています。その一つであるモーニングセミナーには、理学療法界にいち早く超音波を導入し、現在カリスマ的存在である林典雄先生に“運動器超音波機能解剖”を、ランチョンセミナーには、スポーツ界では名高い、運動器超音波のトップランナーでもある杉本勝正先生に“肩肘のコンディショニング”をご講演いただきます。また、超音波ガイド下伝達麻酔では他の追従を許さない、運動器超音波界の貴公子・仲西康顕先生にその最前線に関するミニレクチャーと、引き続いて行われるパネルディスカッションでは麻酔科の先生方を交えて、その実際・リスク・展望に関して語っていただく予定です。さらに、今後医療経済を考えるうえで大変重要なテーマになる“費用対効果”に関して、日本臨床整形外科学会副理事長の三宅信昌先生にご講演をお願いし、その後のパネルディスカッションにて超音波診療に関する意見交換を行う予定です。

本学会で皆様の日々の臨床、研究の発展に少しでもお役立ていただけましたら幸甚に存じます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学会前日から祇園祭がはじまり、暑い京都が予想されます。どうか皆様クールビズにてご来場ください。